

平成26年度 内閣府委託調査 報告会

マネジメント人材育成支援に関する調査 (地域課題の解決)

平成27年6月29日(月)



一般財団法人 日本総合研究所
特別研究本部 齊藤 哲也

「地域課題の解決」 報告内容

1. 本テーマの問題意識と実施方針
2. 実施体制
3. 研修の重点ポイントと概要
4. 研修成果を高める評価体系
5. 受講者の属性
6. 研修の効果(事前・事後の比較)
7. まとめ(全体考察)

1. 本テーマの問題意識と実施方針

地域には立場の違う多様なセクターが共存

地域課題における背景

地域課題特有の問題

問題1) 当事者だけでは課題解決が困難

- 住民: 当事者としての問題意識が多様である。
- NPO: 機会はあるが、資源と信用がない。
- 行政: 信用はあるが、公平性が原則。
- 企業: スキルはあるが、機会がない。
- 大学: 体力と時間はあるが、実践の場がない。

問題2) 合意形成が困難

- ・課題の優先順位が決まらない
- ・実行性のある役割分担ができない

課題は先送り

解決できない根本理由は、
「多様なセクター」による「合意形成」!

地域課題における解決策

- ① 多様なセクターでの対話
- ② コーディネーターの人材育成

★NPOに求められる役割

「課題解決の“担い手”になる」から
「課題解決の“場”をつくる」へ

★NPOの人材に必要な能力

場をデザイン
する力

×

場をマネジ
メントする力

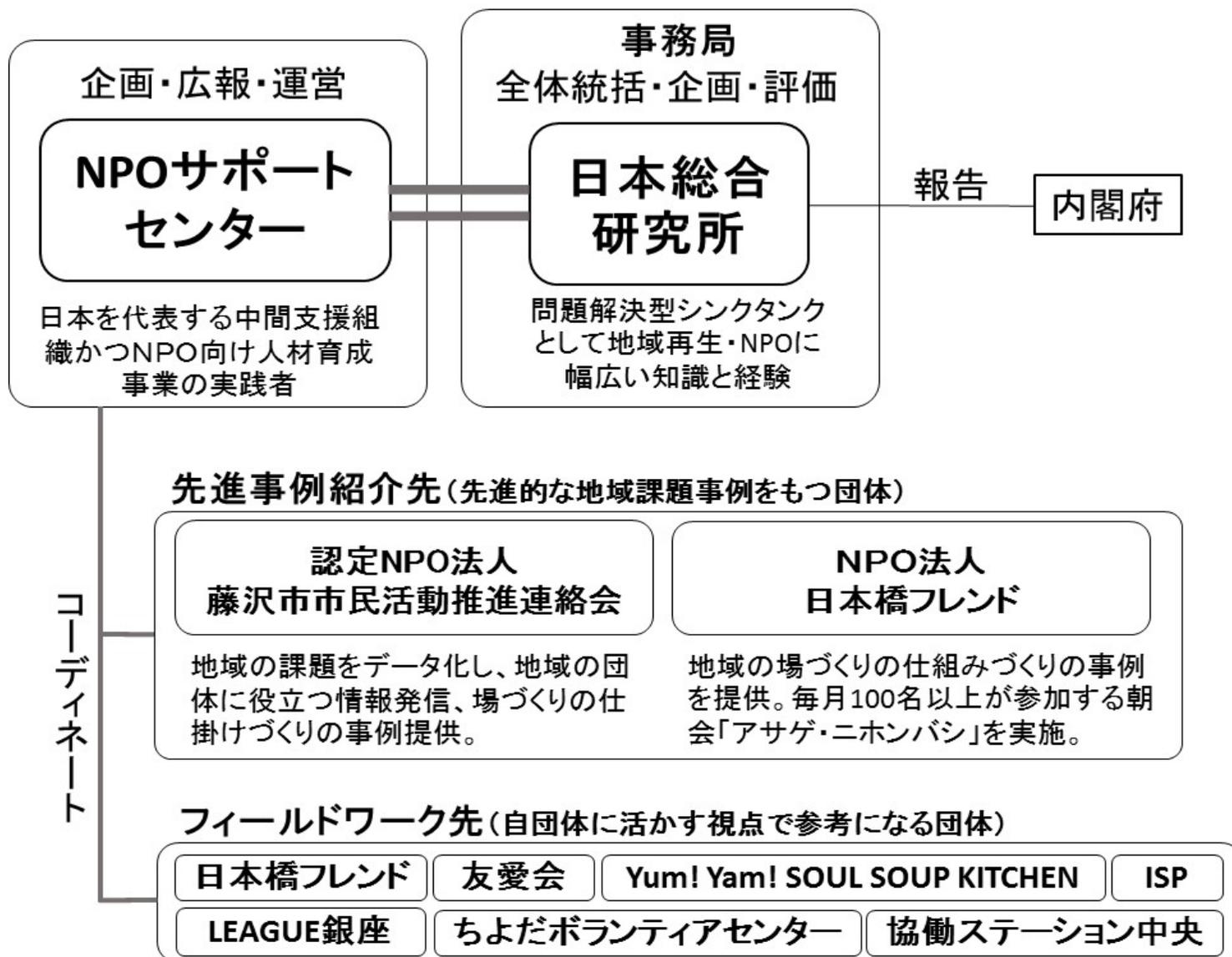
地域課題を解決!

1. 本テーマの問題意識と実施方針

本調査の狙い

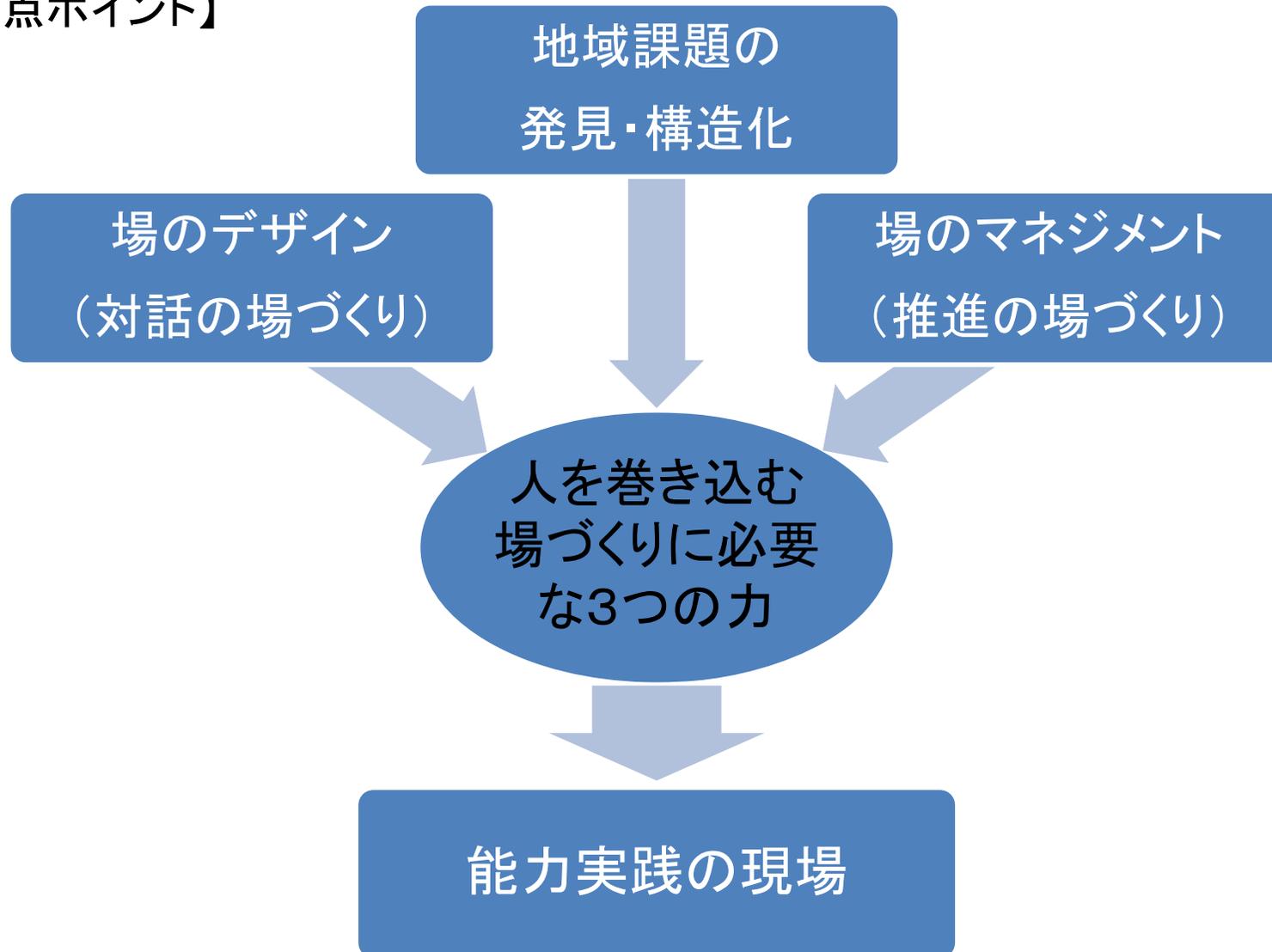
- 1) 人を巻き込む場づくりの担い手が育つ。
- 2) 異なる地域で応用可能な基本となる【型】を習得する。

2. 実施体制



3. 研修の重点ポイントと概要

【重点ポイント】



3. 研修の重点ポイントと概要

【実施プログラム】

座学
(全4回)

×

フィールド
ワーク

＜座学(集合研修)＞

先行事例に学ぶ場づくりの技術
場のデザイン力 (対話の場づくり)
場のマネジメント力 (推進の場づくり)
フィードバック会

＜フィールドワーク＞

日本橋フレンド ユウゲ・ニホンバシ
友愛会 地域ケア連携を進める会の事務局ヒアリング
LEAGUE銀座 コーディネーターとの意見交換会
Yum! Yam! SOUL SOUP KITCHEN vol.7 熊本県南・水俣&葦北版
ちよだボランティアセンター へのヒアリング
ISP 第3回杉並区プロアクション・カフェ
日本橋フレンド 第33回アサゲ・ニホンバシ
Familympic 「企業と地域コミュニティの未来」ダイアログ
協働ステーション中央 第43回十思カフェ
ISP “場”の可能性～若き杉並の場づくりリスト大集合～

【講師】



齊藤 哲也 (合同会社ローカル
デザインネットワーク代表、
一般財団法人日本総合研究所)



田邊 健史 (NPO法人NPO
サポートセンター事務局次
長、協働ステーション中央
チーフコーディネーター)



手塚 明美 (一般社団法人ソーシャ
ルコーディネートかながわ代表理
事、認定NPO法人藤沢市市民活動
推進連絡会 理事・事務局長)

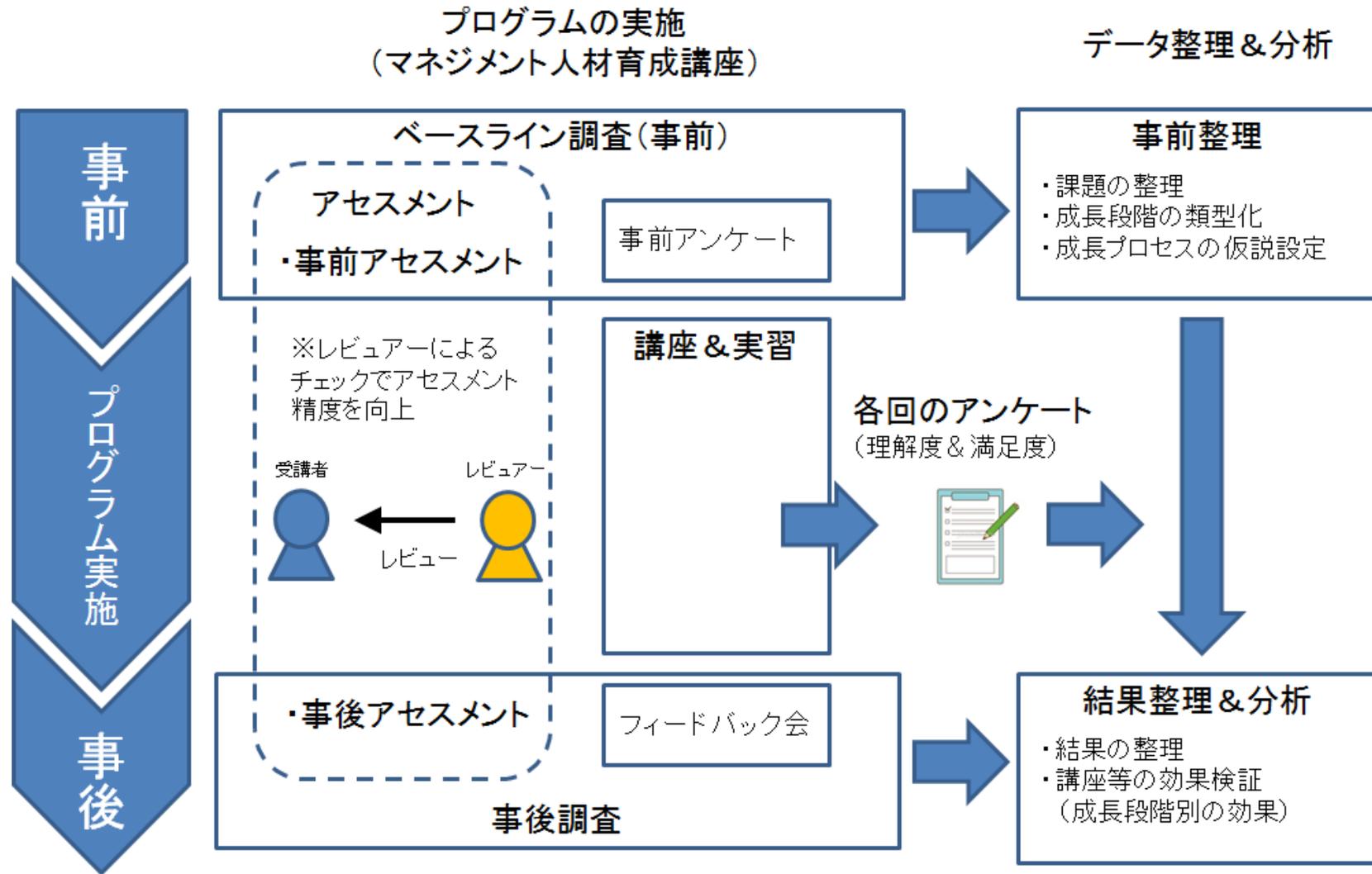
川路 武 (NPO法人日本橋フレンド
代表、三井不動産株式会社)



研修の様子

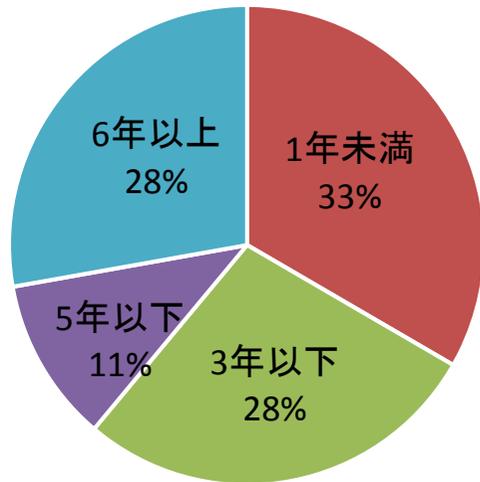


4. 研修成果を高める評価体系

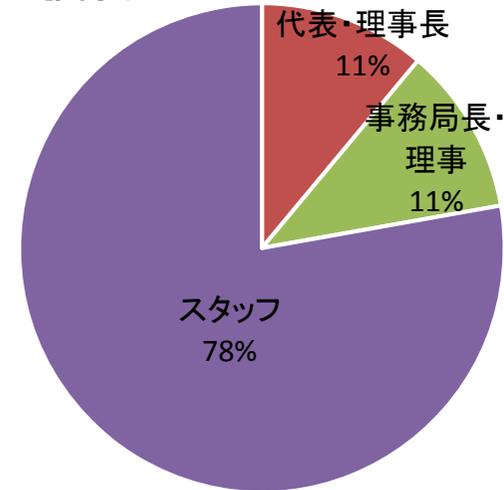


5. 受講者の属性

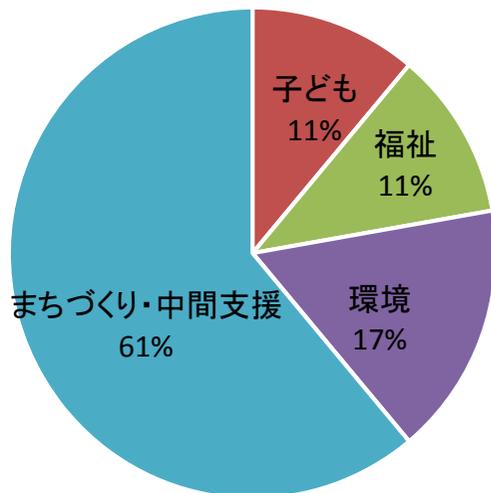
受講者の勤務年数



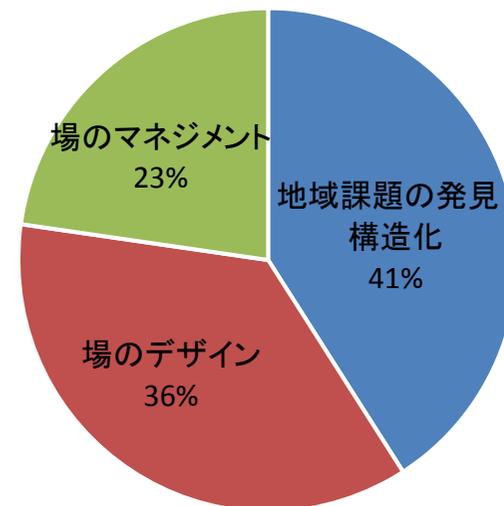
受講者の役職



受講者が所属する団体の活動分野

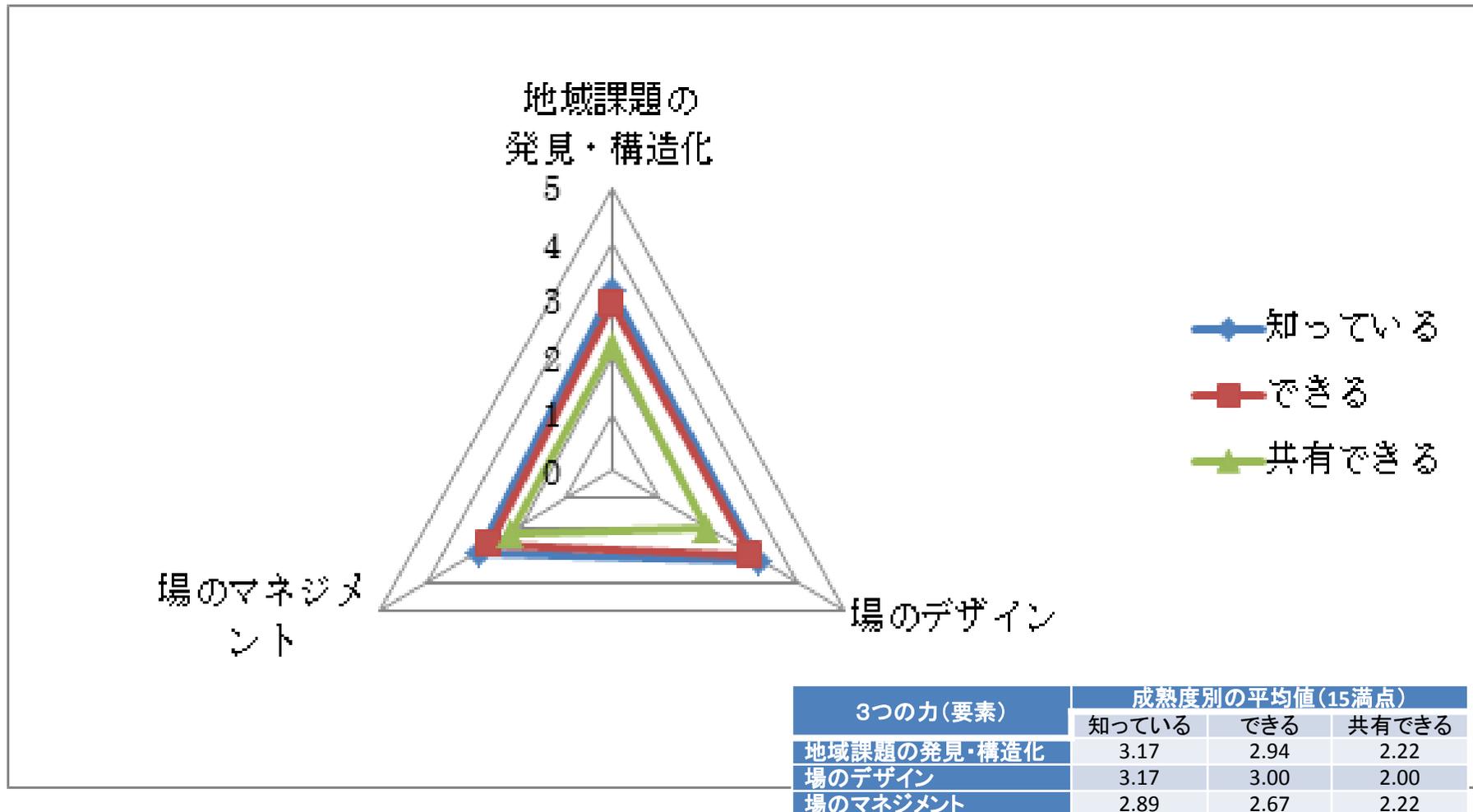


受講者が抱える優先順位の高い課題



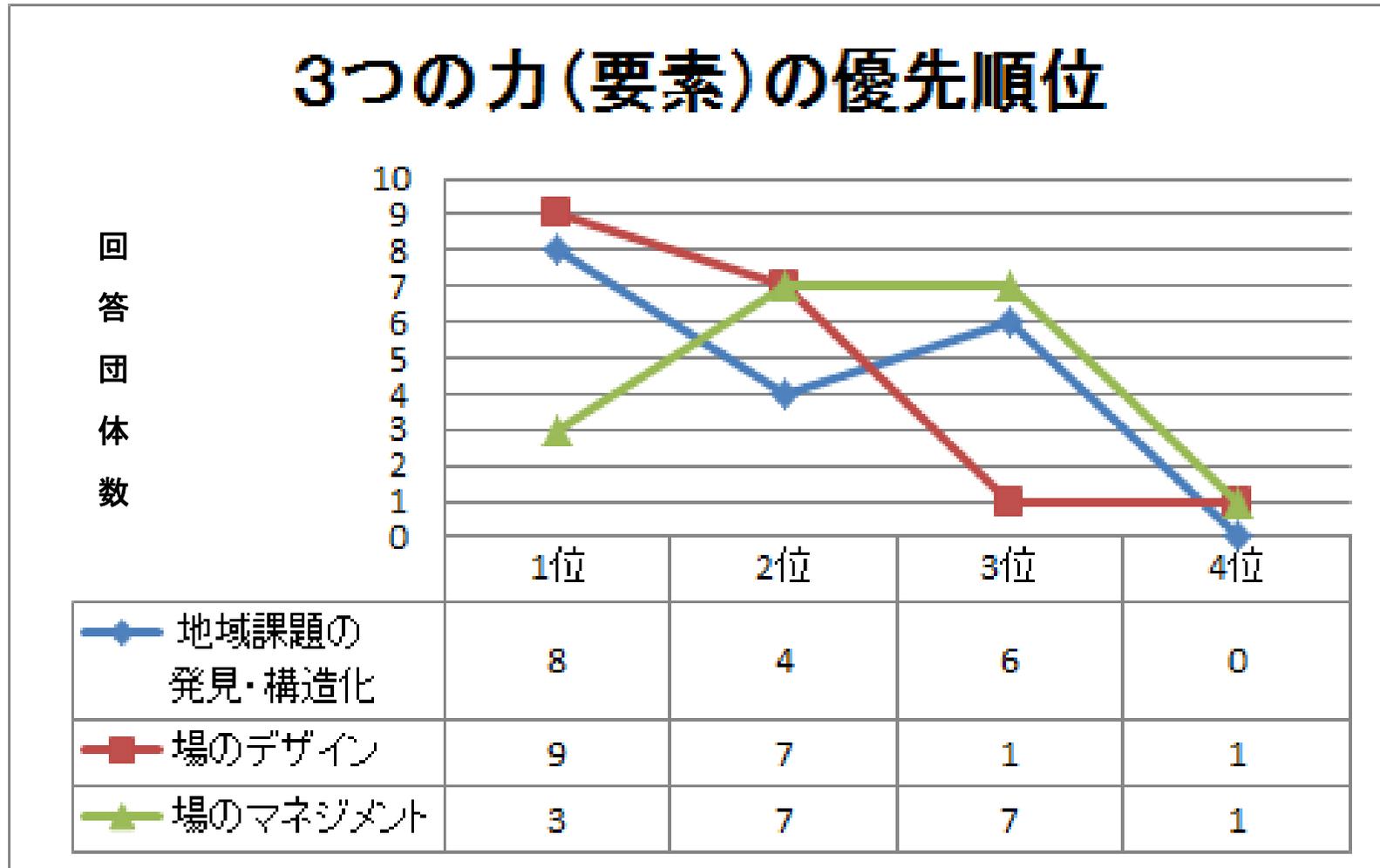
6. 研修の効果(事前・事後の比較)

事前アセスメント



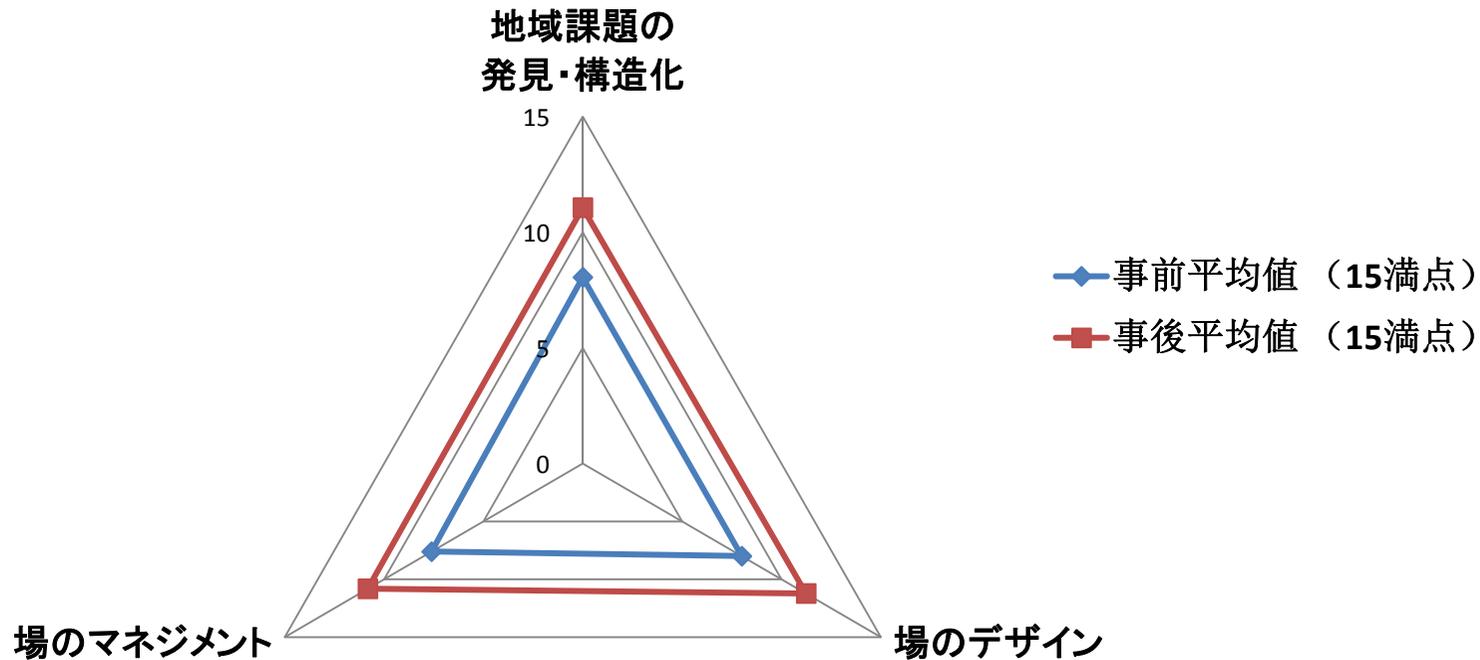
6. 研修の効果(事前・事後の比較)

事前アセスメント



6. 研修の効果(事前・事後の比較)

事後アセスメント



3つの力(要素)	事前平均値 (15満点)	事後平均値 (15満点)	事前と事後 の差
地域課題の 発見・構造化	8.06	11.06	3.00
場のデザイン	8.00	11.24	3.24
場のマネジメント	7.61	10.82	3.21

6. 研修の効果(事前・事後の比較)

【受講者コメント】

- 今まで体系的に学んだことがなかったなので、非常に役立った。
- 研修を機に新たな学びとチャレンジが生まれた。また、同僚のスタッフに伝えることにより、活動の広がりが生まれたと感じる。
- 特に、プロジェクトを立ち上げる際の企画の考え方やチームの運営手法は、座学と現場の両面から学ぶことができ、大変参考になった。
- 組織が持っているリソースや積み重ねてきた経験値を認識する良い機会となった。
- 研修でのヒントが実践で役立った。

【レビュアーコメント】

- 地域課題の解決に向けた場のデザインやマネジメントに必要なハートとツールを学んだことにより、工夫を凝らしたイメージを獲得できたようだ。
- 地域へのアウトリーチの手法やつながりコツ、情報発信の仕方など多くのことを学んだ実りある研修だった。
- みずから外へ出て積極的に関わっていかうとする姿勢が生まれたのが最大の収穫。
- 研修を受けてから、多角的な視点で地域課題等を見れるようになった。

7. まとめ(全体考察)

(1) 実践型プログラムの有効性

- ①地域課題の解決における体系的な学びの機会提供
- ②「実践の場」から学ぶフィールドワーク
- ③地域課題の解決における「課題設定」の重要性

(2) 受講者の評価の必要性

- ①アセスメントの重要性
- ②講座運営者に向けたアセスメント活用の普及・啓発
- ③レビューアーの設置と活用

(3) 受講者間における相乗効果

- ①相互学習の機会提供
- ②自己評価の客観性の獲得
- ③受講者間のコミュニティの形成

(4) マネジメント人材のさらなる育成に向けて

- ①地域性を考慮したカリキュラムの整備
- ②個人の育成から組織の育成へ